

島本駅東エリア活性化基本計画(案)に関するパブリックコメントの実施結果

募集期間	令和8年1月17日(土)～2月15日(日)
資料の閲覧方法	役場設置及び町ホームページに掲載
応募方法	持参、郵送、ファックス、町ホームページのwebフォームからの送付
意見提出件数	15人(39件)

※ご意見について、原則として原文どおり掲載しています。

番号	ページ数	意見	町の考え方
1	P.24、25	島本駅東エリアの資料館を開放的にして住民だけでなく他のエリアから人が集まるような魅力的な場所にしてほしい 建造物を活かしつつカフェやレストラン、ショップや工房など誘致して観光拠点を形成するのも良いと思う またサントリーや小野薬品、トッパン等大手の企業にも働きかけて島本町を盛り上げて頂きたい	本計画案において、島本駅東エリアは、町内の方々が集うだけでなく、町外からも人を呼び込む場所に位置づけております。 島本駅東エリアの滞在機能や交流促進機能等を向上させるため、歴史文化資料館の正面広場と史跡公園南西角の三角地について、民間事業者による施設整備・運営を可能とする民間活力の導入に向けて、令和8年度以降詳細な検討を進めます。 歴史文化資料館では、今後実施する耐震補強工事にあわせて、展示内容のリニューアルを計画しています。より住民の皆様に来館いただける資料館となるよう、専門家の助言指導を受けながら、検討を進めます。
2-1	P.3	島本町在勤・在住の町民として、「島本駅東エリア活性化基本計画(案)」について意見を提出いたします。(本文中に参考URLを引用しています) 本計画案には、島本駅東エリアを町の“玄関口”として位置づけ、歴史文化資料館、史跡公園、駅前広場といった公共性の高い空間を核に、人が集い、滞在し、交流する場をつくらうとする意図が感じられます。私は歴史文化資料館の近くで暮らしており、ストリートピアノなどのイベントの際には家族とともにこのエリアを訪れています。日常的に歩く中で、この場所が持つポテンシャルの大きさを実感しており、少しの工夫や視点が加わることで、島本町らしい豊かな時間が生まれるのではないかと期待をもって本計画案を拝見しました。 以下、計画をより町民に開かれ、長く育っていくものとするための意見を述べます。	
2-2	P.29	1. 文化資源を「知る」だけでなく、「物語として体験できる」展示へ 島本町には、水無瀬離宮や水無瀬駒など、歴史的事実と物語性をあわせ持つ文化資源が数多く存在します。歴史を楽しむ方法の一つは、文字として残された記録と、実際に残る遺構や遺物を重ね合わせ、そこに生きた人の心情や時間の流れを想像することだと思います。 水無瀬離宮は、『伊勢物語』において、惟喬親王が在原業平らとともに訪れ、和歌を詠んだ場所として描かれています。町のホームページでは、この記述と、河川跡から出土した土器の年代が一致することも紹介されており、文学と考古学が重なり合う非常に魅力的な題材です。 『伊勢物語』は、在原業平という魅力的な貴族を主人公にした恋愛物語や和歌が詰まった作品で、国文学の分野では広く知られています。光源氏のモデルの一人とも言われる業平の物語には、恋愛や和歌、政争に敗れた悲劇の皇子、といった素材が織り込まれており、国文学ファンに人気で若い世代による2次創作(イラストやマンガ)も盛んです。この町の歴史文化資料館は、単なる資料展示の空間にとどまらず、このような物語を感じられる場として活かしてはいかがでしょうか。https://souda-kyoto.jp/event/detail/230103.html また水無瀬は、『伊勢物語』にとどまらず、和歌の歴史の中で繰り返し詠まれてきた土地でもあります。水無瀬離宮は、後鳥羽院がたびたび訪れて歌会を開いた場所として知られ、藤原定家をはじめとする歌人たちが集い、和歌を交わした文化的な場でもありました。水無瀬は、特定の一人や一時代の物語に限られず、時代を超えて多くの人の感情や言葉が重ねられてきた場所だと言えます。 歴史文化資料館の展示においても、単なる資料解説にとどまらず、 ・同じ「水無瀬」を、時代や人物ごとに読み比べて紹介する ・和歌と史跡、現在の風景を重ねて伝える ・「どのような気持ちでこの歌が詠まれたのか」を想像できる解説 といった工夫があれば、和歌や歴史に詳しくない人や若い世代、町外からの来訪者にとっても、物語として楽しめる展示になると考えます。水無瀬という土地が、長い時間をかけて言葉と記憶を蓄積してきた場所であることを体感できる展示は、島本町の歴史文化資料館ならではの大きな魅力になるのではないのでしょうか。	歴史文化資料館では、今後実施する耐震補強工事にあわせて、展示内容のリニューアルを計画しています。より住民の皆様に来館いただける資料館となるよう、専門家の助言指導を受けながら、検討を進めます。

番号	ページ数	意見	町の考え方
2-3	P.34	<p>2.「文化 × 福祉 × 参加」—仕事づくりと学びにつながる運営モデルを 本計画案では、歴史文化資料館正面広場や史跡公園への民間活力導入が示されていますが、現段階では事業性の面で慎重な意見も見受けられます。そこで、単一の大規模民間事業者に委ねる方法だけでなく、町民や福祉事業所が関わりながら育てていく、小規模・分散型の運営モデルをあわせて検討していただきたいと考えます。 こうしたモデルは、来訪者だけでなく、町民自身がこの場所を育てていく実感を持つ“手づくりのにぎわい”をつくることにつながると思うからです。</p> <p>1)町民が関われる展示・活動スペース 歴史文化資料館や史跡公園の一角に、レンタルボックスのような小規模な展示・販売スペースを設け、町民が参加仕組みを提案します。 https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000035605.html 例えば、 町内の作家や手仕事をしている人の展示・販売 学校や子どもたちの作品展示、 ワークショップや活動紹介など、 文化展示や季節行事と連動させることで、「見る」「学ぶ」「関わる」が自然につながる空間になると考えます。</p>	<p>資料館正面広場や公園内の一部は、民間事業者による利活用や史跡公園に立ち寄りたくなる施設の整備等、柔軟な活用を検討します。 事業の実施にあたっては、様々な視点で、これまで以上に庁内で十分な連携を図りながら、推進してまいります。</p>
2-4	P.34	<p>(2)福祉事業所が関わる、入れ替わり型のやさしいコミュニティカフェ エリア内に、人がふらりと立ち寄れるカフェスペースがあることで、滞在時間が伸び、人と人との交流が生まれます。その運営を、町内の複数の福祉事業所が交代で担う「入れ替わり型」とすることで、この場所は単なる飲食提供の場を超えた役割を持つと考えます。 このカフェは、 ・高齢者や障害のある方の就労や社会参加の機会 ・福祉事業所にとっての仕事づくりの場 ・来訪者が日常の中で多様な層の町民と出会うことができる開かれた空間 さらに、 ・子どもたちが配膳や接客を体験する職業体験 ・福祉の仕事を知るキャリア学習 ・世代を超えた交流の機会 を組み合わせることで、単なる経済活動ではなく「誰かが誰かを気にかける場所」となります。そうしたやり取りが、まち全体の安心感や居心地のよさを生み、また生涯学習・キャリア教育が自然に重なる学びの場になるのではないのでしょうか。 https://blog.canpan.info/com-cafe/img/E6B4BBE58B95E5A0B1E5918AE69BB8.pdf</p>	<p>エリアとしては、地域のあらゆる世代の方々が集い、憩う場となる環境づくりを目指します。エリア内にてどのような形態の事業者運営が可能かについては、令和8年度以降詳細な検討を進めます。</p>

番号	ページ数	意見	町の考え方
2-5	P.24、25	3. 文化・福祉・参加・学びが重なって生まれる島本町らしさ 以上の提案により、文化は「見るもの」から「感じ、関わるもの」へ、福祉は「支えられる仕組み」から「まちの役割」へ、公共空間は「通過点」から「居場所」へと変わっていくと考えます。 大規模な開発では生み出せない、人と人の距離の近さ、関わりの温度感こそが島本町の強みです。本計画が、町民とともに育ち続ける場となることを願い、意見とさせていただきます。	本計画をもとに、住民の皆様とともに育ち続ける場となれるよう、令和8年度以降詳細な検討を進めます。
3	P.31、32	桜井駅史跡公園について、現状では樹木が鬱蒼としており、鳩が多く集まることもあって、全体的に暗く、安心して子どもと利用したいと感じにくい雰囲気があります。 そのため、近隣に住んでいても「遊びに行こう」と思えない公園になっているのが現状です。 ぜひ、見通しが良く、明るく清潔感のある開放的な広場へと整備していただきたいです。 例えば少し大きな構想にはなりますが、服部緑地公園のように、オープンカフェやパン屋などが自然と集まる施設を併設し、砂場を芝生広場にするなどで、子どもから大人まで安心して過ごせる空間になると考えます。 そうした整備が実現すれば、島本駅東側に人の流れが生まれ、日常的に立ち寄れる「温かみのある交流の場」となり、街全体の魅力向上にもつながるのではないのでしょうか。 また、公園の場所に限らず、島本駅周辺に100円ショップのような日用品を気軽に購入できる店舗があると、子育て世帯や高齢者にとっても利便性が高まり、より「住み続けたい」と思える街になると思います。	花や紅葉など1年を通じて季節の移ろいを感じて四季を楽しめる公園としていくために、植栽の再整備を検討します。既存のクスノキについては基本的に保全しつつ、一部過密に植えられていることにより、管理上安全性に問題があるものについては、伐採することを検討します。 また、公園内の一部は、民間事業者による利活用や史跡公園に立ち寄りたくなる施設の整備等、柔軟な活用を検討します。 島本駅東エリアは、電車やバス等の交通の結節点となるJR島本駅前に位置しアクセス性が高いエリアです。この利便性を生かして、町内の方々が集うだけでなく、町外からも人を呼び込む場所として整備・利活用することで、多世代が交わる魅力的な空間づくりを推進します。
4-1	P.34～37	1. 島本駅東エリア活用についての案1 島本町の第5次総合計画の第2章、まちづくりの基本方針の1番目では「思いやりとふれあいのあるまちづくり」ということで「平和と人権を尊重し、性別や年齢、国籍、障害の有無、価値観の違いなどにかかわらず、お互いに認めながら、住民・事業者・団体など多様な主体が参画し、連携・協働する地域づくり、まちづくりを進めます…」とある。これはいわゆる包括(インクルージョン)の考え方を1番に持ってきておらずばらしい方針である。また総合計画でもそうなのだが、住民にアンケートを取ると島本のいいところは水と緑豊かな町であり、将来もそうでありたいと願っている人が非常に多い。さらに宅地開発による転入で子どもの人数が当面のあいだはかなり増加する。以下ではこのことを前提にして意見を述べる。 島本駅東エリア活性化基本計画案のパターン1(P.34,35)のように資料館の耐震性を高め、島本の歴史によりいっそう興味を持ってもらうよう、見栄えという面でも展示ボリュームという面でもいっそう改善されるよう変更することがよい。舞台は不要。今は講演会などで使用もされているが、展示との両立となると広さが中途半端と思うので思い切って展示を充実させる方向を望む。天井が高いので中2階を作るか、回廊の部分の中2階にして展示スペースの拡張をするのも可能なら検討して欲しい。 パターン2は面積的に歴史展示という点は非常に貧弱になり、望ましくない。パターン3は恐らく無いだろうが、駅前のカフェスペースの類は特に島本らしさとは関係なくよくある施設であり、島本らしさという趣旨にはなじまない。また既に特定の民間事業者を決め打ちしているような表現があり(ジビエやクラフトビールなど)公平性にも欠ける。 歴史資料館前にわくわくするような作業所と、作業所で作られたものを売る(イートインスペースがあってもいい)ような常設スペースを設ける。”すべての人が、「安らかに静やかに日々を過ごせる」まち”(島本町ひと・まち・しごと創生総合戦略)の趣旨を満ちし、島本町総合計画のめざすまちの姿(P.60)にある「障害者が自立し、尊厳と生きがいを持ち、地域の一員として暮らすことができるまちをめざしています」にも適合的である。200平米の三角エリアは学童か保育園を作るのもいいかもしれない。桜井史跡公園を遊び場にできる。子育て世代の増加で保育・教育環境のインフラ整備を積極的にしなければならぬ。東エリアはその受け皿の一つと考えてもいい。	館内は、34ページ「歴史文化資料館の整備・利活用パターン」のうち、パターン1の資料館の機能を充実させ、歴史文化に対する関心を高め、楽しく展示を見ることができるよう空間整備を検討します。 具体的な展示手法や空間整備については、今後実施する耐震補強工事にあわせて、展示内容のリニューアルを計画していますので、より住民の皆様に来館いただける資料館となるよう、専門家の助言指導を受けながら、検討を進めます。 保育環境の整備に当たっては、町における保育ニーズの動向を引き続き注視し、町内の既存施設を最大限活用できるよう、民間事業者とも十分な協議を重ね、過不足のない適正な定員管理を図ってまいりたいと考えております。
4-2	P.34～37	2. 島本駅東エリア活用についての案2 上勝町には有名なゼロウエストセンターがある。これは住民自らがごみ(資源)を持ってきて細かく分別し、廃棄ごみを突極に減らす施設(取組)である。このゼロウエストセンターを駅東に設け、ごみ量の減量を目指す。上勝のゼロウエストセンターは再利用できるごみは希望者が引き取ることができるが、それを真似て不用品交換スペースを設ける。これは島本町第二期環境基本計画の「基本方針4 みんなでやろう！資源が循環するまちづくり(循環型社会)」と適合する。ただ単にスペースを作っただけではたちまち不用品であふれるような気もするので一定のルール作りは必要だろう。フードドライブの常時受け付け場所にするなど環境施策の場としたい。	公園内の一部は、民間事業者による利活用や史跡公園に立ち寄りたくなる施設の整備等、柔軟な活用を検討します。事業の実施にあたっては、様々な視点で、これまで以上に庁内で十分な連携を図りながら、推進してまいります。 ごみの減量化については、ごみの分別を徹底し、リサイクルや再利用を促進することで、減量化が図れるものと考えております。このことから、本町では令和5年度より各種イベントでのフードドライブ実施し、令和7年度からは、食用油の回収やモバイルバッテリーの回収を行うほか、不用品の引き渡しを目的とした「おいくら」、「ジモティ」との連携協定による取組を実施しております。 なお、ゼロウエストセンターの設置については、人口規模や地域性など、多くの課題があるため、本町での設置は困難であると考えております。

番号	ページ数	意見	町の考え方
4-3	P.24、25	<p>3. 駅東エリアのにぎわいづくりについて改めるべき点 この計画は都市創造部にぎわい創造課が中心となって行われているようである。しかしそれではバランスの取れた施策にならない可能性がある。例えば2025年9月定例会議(1日目)で歴史文化資料館の利活用について以下のようなやりとりがあった。 『議員:ご答弁の中で、各所管に利用規模を調査したということでしたけれども、この点、住民のニーズについて、どの課から、どのような回答が得られたのでしょうか。特にですね、現在の所管課である生涯学習課からは、どのような回答があったのか、これについても伺います。 名越部長:歴史文化資料館の利活用について、各所管に利用規模を紹介した結果、危機管理室、都市整備課、政策企画課の3部局から回答がございました。(以下略) 議員:(前半略)なぜ、現在、資料館を所轄している生涯学習課が、何も回答を出していないのか、その理由について伺います。 岡本教育こども部長:(略) 横山教育長:(前半略)今後の建物の利活用方法や、資料展示の機能、機能の維持の在り方につきましては、全庁的な協議のもと、最終的な意思決定が行うものであり、その結果、歴史、文化、資料館に新たな民間活力を導入し、資料館機能を移設する方針が出た場合には、教育委員会といたしましては、その方針に従い対応するものでございます。』 教育委員会とは「行政委員会の一つとして、独立した機関を置き、教育行政を担当させることにより、首長への権限の集中を防止し、中立的・専門的な行政運営を担保」というものである(文部科学省ホームページ)。全庁的に決定されたことを実行するのは当たり前のことで、ここは教育長としての見識が問われる場面だと思ふのだが、そちらの言及がなかったのは残念だ。また私はゼロウエストセンターを提案したが環境課も駅東の議論にかかわるべきである。 まとめると「にぎわい」ということばを一度外してマインドセットを変えるべきである。パターン3は事業性に問題があるという結論だが、もしも事業性があれば行政としてはパターン3を推していたように思う。歴史文化や環境よりも経済という価値観を感じる。もっといろいろな方向から部署をまたいだ知恵を出すような体制で事に当たって欲しい。</p>	<p>本計画の作成については、これまでも関係部局と綿密な連携のもと検討を重ねておりますが、今後の事業の実施にあたっては、様々な視点で、これまで以上に庁内で十分な連携を図りながら、推進してまいります。</p>
5-1	P.1、5～8、11～13、17～19、25	<p>島本町歴史文化資料館に関して町の報告書と町民のアンケートを読んでも町、町民の多くが島本町に歴史的価値の重要性を認識していると思う。 特に町民アンケートでは70歳以上の高齢者よりも30、40、50、60代といった働き盛りの人が島本町の歴史的価値に重きを置く積極的な意見が非常に多いことに驚いた。</p> <p>住民の意見は具体的に実現しやすいものも多く、この町の事を知らないコンサルよりも住民の方がよほどこの町の魅力や改善すべき点を具体的に挙げていて感じる。町にふさわしく住民が望むように改善していくことで住民の理解と賛同を得られ町に対する郷土愛、シビックプライド、町政への信頼感が育まれると思う。</p> <p>JR島本駅東口界隈は西口の開発で住空間としての賑わいが創生されている西口に比較してローソンもなくなり活気がなく駅前としての立地が生かされていない。</p> <p>住民アンケートでは西口の住宅地、住空間としての顔と対照的に東口は歴史、観光案内、緑、子どもとの遊び場、ベンチ、イベント、カフェ、レストハウス、講演会、音楽といった寛ぎや楽しさ、町外からの訪れによる駅前の集客を望む声が多数ある。どの町でもまず駅を降りたって観光案内所があればパンフレット、地図等町の紹介が必須だ。歴史資料館には観光案内所と島本町の歴史的価値を紹介する2つの場として最適である。 アンケートでは歴史資料館として歴史の紹介を重要視した意見は思いのほか多い。 島本町の歴史的価値は古代、奈良、平安時代の貴族、鎌倉時代の後鳥羽上皇の水無瀬離宮、桜井の駅跡の伝承と太平洋戦争時の戦意高揚に使われた負の歴史等、他の地域にはない非常に大きな歴史的価値を有する。 文学的価値は特に高く後鳥羽上皇、藤原定家は言うまでもないが、在原業平、西行近年においては谷崎潤一郎といった誰もが知る人物の文学作品が水無瀬を舞台につくられている。文学を重視している人には憧れの場所であるにもかかわらず、訪れてみると何もないとの声は度々聞く。</p>	<p>本計画については、住民を対象としたLINEアンケートや、町内にてイベント等を開催する各団体にヒアリングを行うなど、住民のかたのご意見を反映できるよう努めてまいりましたが、令和8年度以降詳細な検討を進める際にも、様々なご意見の把握に努めてまいります。</p>

番号	ページ数	意見	町の考え方
5-2	P.5、10、11、13、14、27～30	<p>建物に関して外観は歴史を感じて良いと言う意見が多数ある一方入口は入りにくく室内は暗く、陰気で空調が悪く見せ方も魅力がないと言った否定的な意見が多い。</p> <p>まずは町も予定している耐震、空調、照明といった基本的な構造を整えることが先決だろう。</p> <p>そのうえで町外からの来訪者にまずこの町がどのような町であるかの紹介として最も価値の高いコンテンツである歴史を紹介するのが大事だと思う。</p> <p>町民も町の歴史を良く知らない人が多く、アンケートでも転出した先で島本町の歴史的価値を知ったという意見があるので町も重要視しているシビックプライド、郷土愛を高めるために歴史資料館に町の歴史をもっと魅力的に紹介する工夫が必要だと思う。資料館に文化財の展示がなければ資料館の意味がなく、来訪者に満足感はない。国宝級の遺物はレプリカ展示などして保存は他の場所にしても良いが、多くの人に見せてこそ文化財は価値があるので他の場所にしまい込んでしまっただけでは価値が生かされないとと思う。</p> <p>今の資料館は展示の仕方、見せ方が今一つ魅力がない。隣の大山崎歴史資料館や向日市、高槻市に学ぶべきと思う。資料館内部に人がいるのに質問しても答えられないし、来館者に積極的に紹介したいウエルカムという雰囲気を感じられない。</p> <p>他の資料館ではボランティアガイドなどの案内もあるので、曜日や予約によって導入できないだろうか。</p> <p>建物、前庭に関しては建物の入口が暗く入りにくい。入りにくさを解消するために奥まった入口をもっと前に出し、出入り口を広げて、明るく入りやすくすることはできないだろうか。</p> <p>歴史資料館辺りにカフェ、レストスペースを望む声も多い。</p> <p>前庭はイベントスペースとしては既に活用されているが、普段は入りにくく使われていない感じがするので塀で遮断せずオープンにするか、最小限のしきりにして外からも入りやすくし東屋等で雨、日陰の備え、イベントの時以外に普段からもレストスペースとして使いやすくする。</p> <p>資料館にカフェを備えてほしいとの声は相当数あるが民間にカフェを誘致してもコストばかりかかり採算が取れづらいと考えられる。</p> <p>歴史資料館としての機能を充実させたい。カフェ機能を備えるために資料館に少しだけスペースを取るか前庭に別棟を増築し障がい者福祉として曜日を決めて障がい者にカフェを運営してもらってはどうか？就業支援にもなるし、お茶、福祉施設でつくったパンやお菓子を提供できる。障がい者施設と共同開発して水無瀬名物のお菓子やパフェ等を出して少しづつ就労訓練しながら営業日をすこしづつ平日に増やしていけたら収益を兼ねた障がい者支援になる。本の返却も可能になりブックカフェにしても良いかもしれない</p> <p>カフェは若い人も入れるように明るくおしゃべりに雰囲気作りをする工夫をし、パン、お菓子などの物販、ジャズや軽音楽などBGMもあったほうが良いかもしれない。</p> <p>ハイキング帰りや待ち合わせ、今後観光での来訪者にもカフェがあると歓迎されると思う。</p> <p>土日は年間イベントを町内外に募集して更に増やし賑わいを創生する。</p> <p>前庭でのマルシェ、物販をはじめ、資料館内では講演会、音楽会、芝居、落語、能・狂言など市民の発表や学びの場として使用頻度を上げ活用することで東口に常時賑わいを創生する。資料館内は舞台のライティング、見せ方の工夫等、内容の充実、見ごたえに手を入れもっと活用しやすく見やすくする。資料館を何に使うかをコンサルに相談するより、用途をはっきりさせてセンスと実績あるインテリアデザイナーに導線や展示の仕方、ライティング等を相談することも必要かもしれない。</p>	<p>歴史文化資料館では、今後実施する耐震補強工事にあわせて、展示内容のリニューアルを計画しています。より住民の皆様に来館いただける資料館となるよう、専門家の助言指導を受けながら、検討を進めます。</p> <p>島本駅東エリアの滞在機能や交流促進機能等を向上させるため、歴史文化資料館の正面広場と史跡公園南西角の三角地について、民間事業者による施設整備・運営を可能とする民間活力の導入に向けて、令和8年度以降詳細な検討を進めます。</p>
5-3	P.7、8、12、27、28、31	<p>もう一つアンケートで多いのは自然、緑、のどかさといったキーワードだ。親子で遊べる、お年寄りもゆっくりできる公園を望む声は多い。</p> <p>楠公園は緑が多く木々もあるが、茂りすぎて陰気な感じがかり、スペースが広いわりに使いにくく、居心地が悪く中途半端で使われ方ももう一つはっきりしない。</p> <p>歴史資料館と一続きで統一感を持たせ、明るく美しく整え、太平洋戦争時における負の歴史的意味も周知した上で古代から近現代にかけての島本町の歴史を知的に学ぶ場所とイベント空間、普段は心地よく明るい安らぎの公園とし、回遊式にしてベンチを増やす、ゲームや遊びができる空間をつくる等イベント時にも対応できるよう最小限の公園デザインをプロに相談する必要があるかもしれない。</p>	<p>花や紅葉など1年を通じて季節の移ろいを感じて四季が楽しめる公園としていくために、植栽の再整備を検討します。既存のクスノキについては基本的に保全しつつ、一部過密に植えられていることにより、管理上安全性に問題があるものについては、伐採することを検討します。</p> <p>公園の活用については、専門的な意見を集めることも視野に、令和8年度以降詳細な検討を進めます。</p>
5-4	P1、6～8、11～13、25	<p>歴史的価値は時間と事象的によるので後でつくりができないし、町の言うシビックプライドに大変大きな意味を持つ。町にとって一番大きな財産である。</p> <p>駅前という最高の立地条件、町民からの期待と関心、素晴らしいアイデアもあるのでこの際住民とも十分に検討を重ねて皆が喜ぶ島本町の一番魅力的な場所にしていただきたいと心より期待します。</p>	<p>島本駅東エリアについては、住民のシビックプライドの向上に資する拠点となるよう、十分な検討を重ねてまいります。</p>

番号	ページ数	意見	町の考え方
6	P.29～37	<p>歴史資料館は耐震工事し、魅力的なカフェやイベントスペースにしてください。 歴史資料の展示は、最低限パネルなどにして、スペースとしては別の場所に移すべきです。 そこに展示物があると、イベントスペースなどが限られて、また子どもは触ってはいけない、など不特定多数が集まる場合、親や、先生が注意をしなければいけない場面が増えます。それは大人も子供もストレスになります。しせき公園もツリーイングができる木を残して、安満遺跡公園のように写真映える公園に下さい。 夏は水遊びができる広場が欲しいです。 ストリートピアノを置いたり、他の地からも人が来たいと思えるような魅力的な場所にしないとつまらないです。 ロータリーはタクシー乗り場もあるけど ほぼタクシーが停まっているのをみたことがないし、バスもあまりないので、そこをうまく活用の場に変えてください。 民間企業の手が必要で。 大東市のもりねきプロジェクトも素敵なので是非問い合わせてください。官民でうまくやっています。洛西口のガタガタなどポーネランドとやっているところもありますので、企業選びをお願いします。 水無瀬駅の島本センターは謎のインフルエンサーの人をお願いしてるようですが、ブログとかばかりしてて、全然綺麗にならないし、おしゃれな店も増えないし、残念です。ちゃんと実績のある企業を見極めて下さい。</p>	<p>本計画案において、島本駅東エリアは、町内の方々が集うだけでなく、町外からも人を呼び込む場所に位置づけております。 島本駅東エリアの滞在機能や交流促進機能等を向上させるため、歴史文化資料館の正面広場と史跡公園南西角の三角地について、民間事業者による施設整備・運営を可能とする民間活力の導入に向けて、令和8年度以降詳細な検討を進めます。 歴史文化資料館では、今後実施する耐震補強工事にあわせて、展示内容のリニューアルを計画しています。より住民の皆様に来館いただける資料館となるよう、専門家の助言指導を受けながら、検討を進めます。</p>
7-1	P.26	<p>○「子育てしやすさ」の具体化について 計画案P26のイメージ図において「子育てしやすい街No.1」という表現が示されている点から、JR島本駅東口を子育て世代にとって象徴的な場所として位置づけようとする意図が感じられます。 また、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略において「若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える」ことが基本目標として掲げられていることを踏まえると、子育て世代や子どもにとって魅力的な環境づくりは、将来的に町全体の活力や賑わいにつながる重要な要素であると考えます。</p> <p>その具体化として、芝生エリアの充実、歩行者と車両の動線を明確に分離する考え方、見通しのよい空間配置などは、子育て世代にとって特に重要な視点だと思います。安全性と使いやすさを両立させる観点から、こうした点についても今後の検討の中で具体的に整理されることを期待します。 あわせて、キッチンカー等の出店についても、親子が立ち寄りやすい時間帯やメニュー構成を意識することで、日常的な利用の定着につながるのではないかと考えます。</p>	<p>史跡公園の整備や資料館の正面広場の外構リニューアル等、具体的な整備内容について令和8年度以降詳細な検討を進めます。 キッチンカーの出店も含めた、東エリアにおける民間事業者の参入手法についても、引き続き検討を進めます。</p>
7-2	P.24、25	<p>○賑わい創出と交通・生活環境への影響について 町民の立場として、JR島本駅東口周辺に賑わいが生まれ、活気ある空間となることは望ましいと感じています。一方で、その賑わいが交通混雑や生活環境の悪化を招かないよう、丁寧に進められることが重要だと考えます。</p> <p>JR島本駅東口周辺へ車で来訪する場合、国道171号やJR高架から補公道道路、または西国街道を経由することになりますが、いずれも基本的に一車線道路であり、現状でも時間帯によっては交通混雑が生じているとの認識があります。島本町都市計画マスタープラン等においても交通環境が課題として整理されていることを踏まえると、来訪者の交通手段の考え方や、車利用を前提としない来訪の誘導、イベント時の交通整理、利用時間帯への配慮などについて、実施計画の段階で整理しておくことが重要だと考えます。</p> <p>賑わいの創出が交通混雑や生活環境の悪化につながらないよう、交通や利用ルールを含めた対応方針が示されることで、町民としても安心して本計画を受け止めることができると考えます。</p>	<p>本町は都市部にアクセスしやすいベッドタウンであり、にぎわい創出に取り組む際にも、良好な生活環境の維持に努める必要があるものと認識いたしております。 島本駅東エリアにおいては、駅利用者や住民を対象とした利活用を検討するなど、生活環境の悪化につながらないよう取り組んでまいります。</p>
8	P.19	<p>大賛成です。 19ページアンケートにあるよう、資料館、史跡公園にはカフェを併設していただきたいです。 特にフードコート希望します。 青陵高校の生徒や町民が、喋ったり勉強するための屋内施設が、JR側にはふれセンとマルヤスしかなく、完全に不足しています。 岡山駅の「杜の街グレース」のフードコートに平日の夜行ったことがあります。駅からだいぶ離れているのに主婦やサラリーマンがたくさん集まっています。マクドナルドがなくても賑わっています。 そのようなおしゃれで、居心地よく、安全なフードコートを導入していただきたいです。 最悪、高槻グリーンプレイスみたいなのもいいです。我々に屋根と机と飲み物をください。</p>	<p>館内は、資料館の機能を充実させ、歴史文化に対する関心を高め、楽しく展示を見ることができるような空間整備の検討を進めるため、歴史文化資料館の正面広場と史跡公園南西角の三角地について、民間事業者による施設整備・運営を可能とする民間活力の導入に向けて、令和8年度以降詳細な検討を進めます。</p>

番号	ページ数	意見	町の考え方
9	P.27、28	島本駅東口の再開発計画ですが 歴史文化資料館の活用ですが 資料の展示等されていますがそれだけでは集客力はあまりにも少ないので 活用法として観光案内所も兼ねたり 土日祝も開館して事を活かして 島本町役場島本駅前出張所として土日祝にも住民が使いやすい場所開設して頂けると助かります。	館内は、資料館の機能を充実させ、歴史文化に対する関心を高め、楽しく展示を見ることができるよう空間整備を検討します。 町内の周遊や地域経済の活性化、住民のシビックプライドの高揚等に向けて、観光施設情報や歴史・文化情報、町内のイベント情報等を発信する機能の強化を図ります。
10	P.34～37	計画書の34ページ以降に提示された3つのパターンについて意見を述べます。私は、パターン2や3のように「交流機能」や「飲食機能」を柔軟に取り入れ、多機能化を図るべきだと考えます。 歴史文化資料館は、駅前の玄関口という島本町に降り立つ誰もが立ち寄れる最高の場所にあります。しかしながら、現在の施設は展示以外の機能に乏しく、町内に住む私にとっても、残念ながら日常的に立ち寄る機会がほとんどありません。 また、水無瀬駅周辺に比べて島本駅周辺は商業施設が少なく、住民として不便さを感じているという課題もあります。資料館を多機能化し、飲食や物販、休憩ができる場所へとリニューアルすることで、私のような住民も日常的に足を運ぶようになり、結果として多くの方が自然に文化財に触れる機会も増えるはずですが。 ただ、計画書では「パターン1」が最も優れているとされています。この方針を進めるのであれば、29ページの方針3にある「子どもから大人まで行ってみたいくなる場所」という目標を必ず実現してください。 今の展示方法は、壁際に資料を並べているだけで、正直なところ「中に入りたい」というワクワク感に欠けます。単なる保存施設に留まらず、今の時代に合った「つい立ち寄りたくなる空間」へと刷新されることを強く期待しています。	歴史文化資料館では、今後実施する耐震補強工事にあわせて、展示内容のリニューアルを計画しています。より住民の皆様に来館いただける資料館となるよう、専門家の助言指導を受けながら、検討を進めます。 エリアとしては、地域のあらゆる世代の方々が集い、憩う場となる環境づくりを目指し、民間事業者による施設整備・運営を可能とする民間活力の導入については、令和8年度以降詳細な検討を進めます。 町内の周遊や地域経済の活性化、住民のシビックプライドの高揚等に向けて、観光施設情報や歴史・文化情報、町内のイベント情報等を発信する機能の強化を図ります。
11-1	P.24、25、29～33	1「緑と水の町・島本」を象徴する駅前空間の創出について 基本理念に掲げられている「島本らしさ」をより具体化するため、駅前エリア全体を単なるオープンスペースとするのではなく、本町の代名詞である「豊かな緑」を全面に押し出した空間にすべきです。 特に史跡公園や資料館の正面広場において、既存の樹木を活かすだけでなく、新たに大規模な植栽（特に樹木）を行い、駅を降りた瞬間に「緑の濃い空間」が広がるような整備を強く求めます。	生活・歴史・文化拠点性を生かし、島本町の魅力を最大限に引き出すため、地域の歴史文化資源の保全・活用による調和のとれた景観の継承に重点を置き、島本町の玄関口である島本駅東側周辺が魅力あふれる空間となることで、地域ブランドの確立につながることをめざします。
11-2	P.24、25、29～33	2 都市のトレンドを先取りした「圧倒的な緑」とヒートアイランド対策について 近年、大阪市内の梅田スカイビル周辺で田んぼや森を再現した「新里山」が注目を集めているように、「都市の中に本物の自然をデザインする」ことは世界的なトレンドとなっています。本町においても、駅前の利便性と引き換えにアスファルトを増やすのではなく、駅を降りた瞬間に深い緑に包まれるような空間整備を求めます。 ・環境性能の向上: 豊かな樹冠を作る高木を配することで、ヒートアイランド現象を抑制し、夏場でも住民が心地よく滞在できる「天然のエアコン」としての機能を重視してください。 ・島本らしい価値の創出: 都心部が多額の費用をかけて人工的に緑を作っている今、もともと豊かな自然を持つ島本町がその価値を最大化して駅前に配置することは、最強の差別化戦略でありシビックプライドに直結します。	駅前に広がる緑の空間整備については、不特定多数のかたが滞在する空間の中で安全性や景観上のバランスがとれた空間整備ができるよう、令和8年度以降詳細な検討を進めます。 緑化事業については、ヒートアイランド現象の抑制を目的とした重要な取組の一つであり、現在、公共施設への緑化事業を実施しております。これらの取組を通じて、住民が比較的容易に参加できる活動を促進し、地域全体における温暖化防止対策を進めてまいりたいと考えております。
11-3	P.24、25、29～33	3 地下水を体験・実感できる「水のある空間」の導入について 本計画の導入機能において「緑の空間」には言及がありますが、島本のもう一つの宝である「水(地下水)」に関する視点が不足していると感じます。 駅前広場や公園内に、単なる景観としての噴水ではなく、島本の豊かな地下水を実際に触れたり、体験したりできる水辺(親水空間)を設けるべきです。地下水が豊かな町であることを視覚・触覚で体験できる場を作ること、環境教育の場としても活用でき、本町のアイデンティティをより鮮明に示すことができるはずです。これとあわせて、かつて駅西にひろがっていた田園空間を再起させるような取り組みも期待したい。 ・地下水を五感で体験できる「水のある空間」の導入について 島本町の誇りである「水(地下水)」を、単なる文字情報ではなく、視覚や触覚で体験できる場を駅前に設けるべきです。 ・親水空間の整備: 豊かな地下水を実際に触れたり、子供たちが遊んだりできる水に関する設備(かつて島本にもたくさんあった井戸などでどうでしょう)してください。それを活用したミニ田んぼも素敵です。これにより、環境教育の場としての価値が高まり、「水の町・島本」のアイデンティティを来訪者に強く印象付けることができます。	本町の地域資源の1つである「豊富な地下水」や「きれいな水」を体験できるような場となるような空間整備についても、令和8年度以降詳細な検討を進めます。

番号	ページ数	意見	町の考え方
11-4	P.24、25、29 ～33	<p>4 歴史の厚重さに見合う、展示内容の抜本的刷新(アップグレード)について 本町の歴史は、縄文時代の遺跡から、奈良時代の東大寺瓦を焼いた窯跡、鎌倉時代の後鳥羽上皇による水無瀬離宮など、西国街道、戊辰戦争の砲弾あとなど、日本の歴史の縮図とも言える極めて厚重なものです。</p> <p>・現状の課題と改善: 現状の資料館の常設展示は、これら全国的な価値を持つ歴史の重みに比して、あまりにも貧弱(内容・演出ともに不十分)と言わざるを得ません。リニューアルにあたっては、この稀有な歴史的価値に十分に見合う、質・量ともに高水準な展示への抜本的な刷新を強く求めます。 史跡桜井駅跡は、中世の物語のみならず、近代において戦意高揚に利用されたという「戦争遺跡」としての側面を持っています。この多層的な歴史を正直に、かつ効果的に展示することを求めます。非核平和宣言をしている島本町だからこその取り組みとして期待します。</p> <p>・唯一無二の「自然史」の展示: 歴史だけでなく、島本町の豊かな生態系を示す「自然史」の展示も充実させてください。特に、「市街地に3種類ものホテルが生息し、駅前徒歩数分でヒメボタルが観賞できる」という環境は、他の自治体にはない島本最大の売りです。自然共生サイトにも登録されています(これについては三年にわたる調査報告書があるので、この内容も紹介してはどうでしょうか。こうした自然の豊かさを、町内外に誇れる形で展示・発信してください。</p> <p>・「自分事化」できる展示: かつてこの場所がどう政治利用され、人々がどう戦争へ向かったのか。負の歴史にも光を当てることで、平和を「足元の歴史」として自分事化できる教育的価値の高い場にしてください。</p>	<p>歴史文化資料館では、今後実施する耐震補強工事にあわせて、展示内容のリニューアルを計画しています。より住民の皆様に来館いただける資料館となるよう、専門家の助言指導を受けながら、検討を進めます。</p>
11-5	P.24、25	<p>【結びとして:町の玄関口にふさわしい「品格」と「知性」のある空間整備を】</p> <p>最後に、本計画の全体像に関わる重要な点として、空間デザインの「質」について強く要望します。</p> <p>島本駅東エリアは、本町の顔であり、歴史・自然・文化というすべてのポテンシャルが凝縮されるべき場所です。ここで求められるのは、単なる利便性の追求や、他自治体の真似をした一時的な華やかさではありません。</p> <p>・「安っぽさ」の排除と品位の保持: 安っぽい装飾(例:現在の年末イルミネーションに見られるような、町のアイデンティティと乖離した演出)は、島本町が持つ落ち着いた佇まいを損なう恐れがあります。新しく整備される空間は、素材の質感や照明の設計に至るまで、徹底して「知性と文化」が滲み出るような、本物志向のデザインを貫いてください。</p> <p>・ 知的な玄関口としての誇り: 「緑・水・歴史」が調和した、静謐で落ち着いた空間こそが、島本の真の価値です。安直で通俗的なデザインに陥ることなく、数十年後も「島本の玄関口は美しい」と誇れるような、品格あるまちづくりを強く求めます。</p>	<p>島本駅東エリアについては、町の玄関口として、質の高い改修となるよう、具体的な整備内容を令和8年度以降検討してまいります。</p>
12-1	P.11、26	<p>「島本町立歴史文化資料館」について、p11のとおり様々な課題を認識しているにも関わらず、p26の将来イメージ図からは、従来通りの定期的なイベント開催と、バラソルとテーブル・チェアの配備、およびキッチンカーの誘致だけの整備しか計画されていない印象を受ける。そもそも、歴史・考古・民族等に関する資料展示を備えた登録有形文化財であることで、人が集まるポテンシャルがあると認識することは、観光資源の有効活用という点でも、街の活性化という点でも、考えが甘いのではなかろうか。毎日の閑散とした資料館をみていると、たとえ空調設備が整ったとしても、歴史文化に関心がある層がわざわざ足を運びたくなくなる魅力は創出できないと感じる。それよりも、敷地内に、町内ニーズが高い飲食店、特に人が集まる室内型のカフェを誘致・併設し、飲食目的で訪れた人々がついでに資料館に立ち寄るような人の流れをつくる方が、資料館の歴史を伝承する役割の発揮や町の賑わい創出に効果的だと考える。なお、キッチンカーとテラス席では、昨今の猛暑や真冬の厳しい環境に耐えられるものではないため、やはり室内型の飲食店の併設が望ましい。</p>	<p>館内は、資料館の機能を充実させ、歴史文化に対する関心を高め、楽しく展示を見ることができるような空間整備を検討します。室内型の飲食店の併設については、構造上の課題や、各種文化財保護の観点から現状困難であると考えております。</p> <p>島本駅東エリアの滞在機能や交流促進機能等を向上させるため、歴史文化資料館の正面広場と史跡公園南西角の三角地について、民間事業者による施設整備・運営を可能とする民間活力の導入に向けて、令和8年度以降詳細な検討を進めます。</p>
12-2	P.12、26、31	<p>P12に記載のとおり、「史跡桜井駅跡史跡公園」は土地も広く、子育て世帯が子どもを遊ばせたり、高齢の方が散歩を楽しむことができる貴重な憩いの場である。一方、公園周辺には休憩できる飲食店や室内型の休憩場所がなく、長時間の公園の利用は非常に難しい。例えば、高槻市の安満遺跡公園や茨木市のおにくるは、駅から10分ほど離れていても、平日・休日を問わず賑わっており、その来場者の多くは市外から来ているという人気スポットであるが、一般市民が行きたくなくなるようなお店(周辺施設を含む)・建物設備や、様々なイベント・取組が沢山ある点が本町の史跡公園との決定的な違いである。個人的には、島本町の一番の魅力は子育てしやすい街であること実感しているため、季節を問わず子どもたちを安心して遊ばせられるような公園にすることは多くの町民の望みの一つではないだろうか。そのうえでp26の将来イメージ図を見ても、ベンチの配備と公園内の遊歩道の整備しか確認されず、集まった人の健康を守るための暑さ・寒さ対策も全く見られない(木陰で涼むのも限界があるのでは?)。子どもが安心して遊べる空間づくりだけでなく、町内外から沢山の人が集う場所として機能させるためにも、定期的なイベント開催は継続しつつ、公園敷地内に飲食店、授乳室等の育児スペース、自習スペース、室内遊具を完備した施設の整備を期待したい。</p>	<p>島本駅東エリアの滞在機能や交流促進機能等を向上させるため、歴史文化資料館の正面広場と史跡公園南西角の三角地について、民間事業者による施設整備・運営を可能とする民間活力の導入に向けて、令和8年度以降詳細な検討を進めます。</p> <p>また、史跡公園においては、ご意見をふまえ、暑さ・寒さ対策も含めて、詳細な整備内容の検討を進めます。</p>

番号	ページ数	意見	町の考え方
13-1	P.3	<p>1. 島本駅東エリア活性化基本計画(以下「計画」)の背景に「歴史文化資料館はもとより、駅前ロータリーを挟んだ北側に位置する史跡桜井駅跡史跡公園(以下、「史跡公園」)を含めた施設は、市街地の中心に位置しており、にぎわいづくりという観点からさらなる活用策が期待できるポテンシャルの高い拠点であると考えられます」とあります。</p> <p>それについては異論があります。島本町は大阪や京都という大都市の近郊にありながら、自然豊かで静かなベッドタウンに価値があり、これこそシビックプライドにつながっています。島本駅に降り立った時に静かな東口のたたずまいを印象付ける歴史文化資料館(以下、「資料館」)や広い空間の駅前広場、鳥の声が聞こえる樹木の多い史跡公園にほっとして安らぎを覚えたい。駅前だから公共施設に民間活力を導入して「にぎわい」を創る、という発想は、近隣の駅前と変わらず、島本の魅力や良さが失われていくのでは、と危惧します。島本駅東エリアが本町の玄関口だからこそ、駅東の公共施設である資料館や史跡公園のある空間は静かで落ち着いた町を望みます。日常的に人が集い「にぎわい」「騒々しい」空間になる必要性があるのか、疑問です。</p> <p>駅東エリアに「にぎわい」が必要ならば公共施設に隣接する民間のエリアである西国街道沿いや水無瀬駅に続く桜井高浜幹線道路沿いに「にぎわい」をつくるカフェなどを誘致する対策こそを行うべきではないでしょうか。</p>	<p>本町は都市部にアクセスしやすいベッドタウンであり、にぎわい創出に取り組む際にも、良好な環境の維持に努める必要があるものと認識いたしております。一方で、駅前という立地の特性上、生活利便性を求める声も多くあります。</p> <p>島本駅東エリアにおいては、様々なご意見を踏まえ、本町の魅力発信の拠点となるよう、令和8年度以降詳細な検討を進めます。</p>
13-2	P.3	<p>2. 島本町立歴史文化資料館設置条例の第1条には設置目的が「郷土を中心とした歴史、考古、民俗等に関する資料(以下「資料」という。)を展示し、及びその活用を図り、住民の郷土理解と文化的向上に資するとともに、文化施設を住民交流の場として提供することにより地域活性化を図るため、島本町立歴史文化資料館を設置する。」定められています。</p> <p>2023年7月に条例改正し、施設の活用策を図るため後段の「文化施設を住民交流の場として提供することにより地域活性化を図ること」を新たに追加したとのことですが、資料館の設置目的は第一義的には前段の「郷土を中心とした歴史、考古、民俗等に関する資料(以下「資料」という。)を展示し、及びその活用を図り、住民の郷土理解と文化的向上に資する」ことのはずです。その目的を十分果たせる施設整備や展示設備の充実、そしてソフト面の展示や講演会・見学会等の企画力こそが求められていると思います。</p> <p>近年の開発に伴って数多くの文化財発掘調査が行われたり、文献史料の調査が行われ、島本町の古代から近現代にもわたる歴史、考古、民俗等に関する資料は目を見張るものがあります。それらの町の財産をもっと活用すれば「住民の郷土理解と文化的向上に資する」だけでなく、町外からの来館者が増えると考えます。駅東エリアの活性化が資料館のあるべき本来の第一義の目的をおろそかにして、「にぎわい」づくりが行われるならば本末転倒だと言わざるをえません。</p> <p>計画の目的に「歴史文化資料館を～魅力的に～島本町の新たな歴史・文化拠点の形成に向け計画策定する」とあります。そのためには資料館を所管する島本町教育委員会生涯学習課を主体として中心として議論すべきではないでしょうか。</p> <p>現在の資料館にはや公共施設であり町内外からの施設見学や施設利用を安心・安全に満足に行っていたために必要な耐震化・空調設備の不備・資料の保存や公開のための設備や備品の不足等多くの課題があります。それらの改善・解決の必要性は、資料館開館以来、求めてきたことです。駅東エリア活性化とは関係なく行うべきことだと考えます。</p>	<p>歴史文化資料館では、今後実施する耐震補強工事にあわせて、展示内容のリニューアルを計画しています。より住民の皆様に来館いただける資料館となるよう、専門家の助言指導を受けながら、検討を進めます。</p> <p>これまでも、歴史文化の発信拠点として、さらなるにぎわい創出につながるよう、庁内で連携した検討を進めており、令和8年度以降につきましても、引き続き庁内で十分な連携を図りながら、進捗してまいります。</p>
13-3	P.5～13	<p>歴史文化資料館(旧麗天館)及び史跡桜井駅跡に係る歴史についての記述は説明が不十分です。</p> <p>桜井駅跡は後醍醐天皇に尽くした楠木正成と子・正行のいわゆる「桜井の別れ」の伝承地といわれ、明治以降、特にアジア・太平洋戦争の激しかった頃、忠君愛国の楠公精神の聖地として、戦意高揚に利用されました。桜井駅跡の拡張整備工事は北摂や京都・大阪中学生・女学生も動員され、多くの小・中学校からも参拝に訪れていました。資料館にはその資料が保存・保管されています。戦争中の歴史を正しく伝える記述をしてください。</p> <p>「桜井の別れ」は軍記物語『太平記』に書かれているだけで、桜井の駅が実在していたのかは、近年の文化財発掘調査による根拠はありません。そのことは島本町も認めていますので、加えて記述すべきです。</p>	<p>本計画における歴史文化資料館(旧麗天館)及び史跡桜井駅跡の歴史についての記述は概略の範囲で記載するものですので、いただいたご意見につきましては、本計画の記載に関するご意見として承ります。</p>
13-4	P.17～19	<p>JR 島本駅東エリアに対する住民ニーズを示すアンケート調査によれば、一番多いのが「緑が豊かで自然に触れられるエリア」、2番目に多いのが「歴史や文化に触れられるエリア」です。そのニーズから推察すると、現在のままでも目的を果たせるのでは、と判断できます。</p>	<p>アンケート調査の自由記述において、様々な課題の指摘があり、駅東エリアの利活用について、検討を重ねる必要があると判断し、本計画の作成を進めてまいりました。</p>
13-5	P.25	<p>基本方針について</p> <p>歴史文化資料館</p> <p>(1) 駅前の立地を生かした空間づくり については先のアンケートに資料館前や史跡公園にカフェなど望む意見もありますが、駅前のポテンシャルを活かすというならば、隣接する民間のエリアである西国街道沿いや水無瀬駅に続く桜井高浜幹線道路沿いに「にぎわい」をつくるカフェなどを誘致する対策こそを行うべきではないのでしょうか。</p> <p>(2) 歴史的資源を活用した景観づくり については、企画展示等の充実で目的は果たせます。大山崎町立歴史資料館が町内外からも評価され見学者や来館者が多いのは、多目的施設の中にある資料館ながら空調および展示設備が整い、展示や講演会、史跡の見学会などの企画が多彩に行われているからです。</p> <p>(3) 地域の方々が集い、憩う場となる環境づくり これについても、現在でも資料館前広場や史跡公園は住民主体の数々のイベントで地域の方々が集い、憩う場となっています。さらに活用していただくためには施設利用料を下げることを提案します。</p>	<p>民地におけるエリアや業種を特定した誘致の予定はございませんが、ご指摘のエリアを含め、町内を周遊していただけるよう、各種にぎわいづくりに関する事業を推進しているところでございます。</p> <p>歴史文化資料館では、今後実施する耐震補強工事にあわせて、展示内容のリニューアルを計画しています。より住民の皆様に来館いただける資料館となるよう、専門家の助言指導を受けながら、検討を進めます。</p> <p>歴史文化資料館の使用料は島本町使用料・手数料の見直しに関する基本方針に基づいて設定しています。今後見直し等を行う際につきましても、同方針に基づいて行ってまいります。</p>

番号	ページ数	意見	町の考え方
13-6	P.29、30	歴史資料館についての「方針1 歴史価値を保全する耐震改修を行います」「方針2 快適性を向上させる設備を整備します」「方針3 展示を見やすく館内を楽しめる空間づくりを検討します」は賛同します。「方針4 歴史文化資料館をより身近に楽しんでもらうための外構リニューアルを進めます」はベンチとテーブルの設置は望みます。しかし、最初に述べたように資料館職員および生涯学習課職員が中心になって検討を取り組むべきです。 「方針5 正面広場における民間活力の導入を検討します」については、特に必要性は感じません。	各改修内容については、庁内で連携を図りながら、検討を進めてまいります。 民間活力の導入については、駅前の活性化につながるご意見として多くあることから、引き続き検討を進めてまいります。
13-7	P.31	史跡公園についての方針で、ベンチは増やしてもいいですが、野鳥や昆虫などの生息地であり、これ以上の樹木の伐採は止めて下さい。駅ができてからずいぶんたぐさんの木が伐採されました。低木の植樹はしてください。	花や紅葉など1年を通じて季節の移ろいを感じて四季を楽しめる公園としていくために、植栽の再整備を検討します。既存のクスノキについては基本的に保全しつつ、一部過密に植えられていることにより、管理上安全性に問題があるものについては、伐採する場合がございます。
13-8	P.34	歴史文化資料館の整備・利活用パターンの中でパターン1：文化財展示強化案を選定したことは当然です。昨年までの検討では、展示資料を別の施設(ふれあいセンターを検討)に移転させ、資料館の館内を民間事業者(カフェ(?)など)に利用させる案が相上にあがっており、公共施設をビジネス目的に使うことは資料館条例違反であると厳しく指摘していたところです。	本計画を作成するうえで、様々な可能性を調査し、各種法令等についても議論したうえで、今後の活用を検討してまいりました。引き続き令和8年度以降詳細な検討を進めます。
13-9	P.38	「歴史文化資料館の改修に対しては、文化庁による保存活用計画を策定し、文化財の保存に対する補助メニューを活用します」とあります。島本町の単費で多額の費用を要する耐震化を実施することは負担が大きく国の補助メニューが活用できるのであれば採用していただきたいが、駅東エリアの活性化計画とは切り離して検討すべきではないでしょうか。	国の補助メニューにおいては、活用が可能なメニューは積極的に取り入れる工夫が必要であるものと考えております。引き続き、様々な補助メニューを財源として活用できるよう取り組みます。
14	P.26	26頁、将来イメージは非常にいいと思うのですが、みんなが安心して過ごせるようにこの図のエリア全てを禁煙にしてもらいたいです。今は駅前のベンチでタバコ吸う人がいたりして周囲に受動喫煙が生じています。けむいものの看板はどうも効果がないようです。なんか喫煙所設置したらいいという人もいますけど反対です。かえって受動喫煙が生じます。	禁煙エリアの設定や喫煙所設置の有無も含め、駅前の機能のあり方については、諸課題をふまえ、令和8年度以降詳細な検討を進めます。
15-1	P.25	過日実施された「高さ制限基本方針案」について下記の意見を付しました。 西側開発で多くの住民が望んだ、高さ制限や田園風景は叶わず、駅ホーム西側は高層建築物で、相当な圧迫感がある。だからこそ、楠公史跡～島本駅東側～西国街道交差点付近は 「既存建築物の高さを超えない範囲～20m以下、さらに低い、高さ制限を設けること」 「島本駅の『ホーム側に立つ乗客、JR車中車窓から、東側エリアが、歴史資料館・史跡公園・西国街道の歴史文化が認識でき、眺められる』ような高さ制限、植栽を施す、景観地区や景観協定を導入して『降り立ちたい』エリアとする」 町道高浜桜井幹線側から山側を見たときに、山並みが眺められ、一定の色彩を保つようにする。 (近隣商業地域と共に、商業振興や景観地区を共存させる先例として、大津市 落雁の道景観地区の例を更に研究活用してはどうか。)	高さの制限につきましては、別途高さ制限の規制に関して議論を進めております。本計画においては、ご意見として承ります。 なお、別途実施しております「建築物等の適正な高さ規定に関する基本方針(素案)」に係るパブリックコメントでは、いただいたご意見に対し、以下のとおり回答しております。 高さ規定地域別方針を検討するにあたっては、「高層建築物の有無」、「上位計画等の位置付けやアンケート結果の数値化」等の5つの判定項目から考察し、各地域について項目別に各々分析し、結果を数値化しております。 市⑦地域におきましては、高層建築物が有り、総合評点が-3点となっていることから、高さ規定の方針を「新たな高さ制限は実施しない予定」としております。 そのため、高さ規定地域別方針につきましては、地域の特徴等を踏まえ、「中心市街地ゾーンであり、近隣商業地域に指定されていることを踏まえ、土地の高度利用を図りつつ生活利便施設等の維持・集積等による利便性の高い市街地形成を進めていくため、高さ制限は導入しない予定」としております。 なお、地域の細分化については見送らせていただきますが、「落雁の道景観地区」の事例につきましては、令和8年度以降必要に応じ更に調査研究をさせていただきます。
15-2	P.28	○駅を起点に p28 機能3 コインロッカーの設置、日除け雨除けの対策、	島本駅東エリアの滞在や交流促進等を向上させるための機能については、引き続き令和8年度以降詳細な検討を進めます。
15-3	P.25	福祉ふれあいバス 土日はコミュニティバスとさきは年齢制限無しで運行 町施設～鉄道駅のみをループで運行、または島本駅、水無瀬駅からピストンで運行させるなど(2025年度文化祭の際の運行経験を参考に)	福祉ふれあいバスについては、高齢者の移動に関する施策で取り組んでいるところでございます。本計画においては、ご意見として承ります。